

『みんなで支える 豊かな川路』の実現！

2026年（令和8年）2月25日

ごあいさつ

寒さと乾燥の季節が続く、油断できない今日この頃です。お身体大切にお過ごしください。

川路でもいろいろな行事がありました。タイムリーにお便りにできず申し訳なく思っています。川路の方々が様々な活動をしたり、応援したりしてくれている様子をお知らせできるようにしたいと思います。柔らかくてほっとする話題と、硬いけれど川路住民にとって大切な話題がありますので、是非お読みいただき、ご意見や感想がございましたら、う～ん・・・センターの所長を通じてお伝えくださいませ。

市長と語るまちづくり懇談会(10/14)



冒頭で市長より、市が行った川路の将来人口分析に基づく推計値が示され、このまま何もしないと、30年後35.5%人口減少し、子どもの数は25年で半分になる可能性があるとの予測が示されました。

(2)現状推移予測 ①人口・高齢化率2020～2025年版



(2)小・中学生の人口予測（現状推移シナリオ）2020～2025年版



5～14歳の流入超過はあるものの、20代前半女性の大幅な流出が響いて、小中学生数は、10年後急減します。ただし、その後はある程度緩やかな減少となります。

また、川路の人口を維持するためには、以下の通り出生率の向上と、毎年4組8人の移住者が川路に定住すると安定化するとお話がありました。

(3)人口安定化シナリオ例

【出生率・流出率・定住増加】の3つを組み合わせたシナリオが検討。目標：30年後、2055年時人口が現在の8割以上、子ども人口が現在の9割以上、男女バランスの保持。

●出生率：現行の1.65→2.07へ段階的向上

●流出率：10代後半～20代前半の流出率は男16%、女41%と現状で設定

●定住増加目標：
現在人口の0.4%（250人に1人）

20代前半男女1組(2名)	😊😊	1組	+女性の取り戻し 合計4組 8人
20代後半女性	😊	1人	
30代子連れ夫婦1組(3名)	😊😊😊	1組	
60代定年帰郷夫婦1組(2名)	😊😊	1組	

続いて、市長と次の2つの話題について話し合いました。

1. 組合未加入問題について

組合に加入することは、メリットよりもデメリットばかりが大きく感じられる。

(1) 組合加入のメリット

- ・常日頃からそれぞれの家族構成等がわかることで、災害時、安否確認が容易になることはもちろん、いざというときに助け合いができる。
- ・祇園祭などの行事を通じて子どもや地区の方と交流ができる。
- ・地域の方に冠婚葬祭を含めいろいろな面で協力してもらえる。

(2) 組合加入促進等のポイント（市長より）

- ・子どもの地区行事への参加については親としても気になる場所であるため、学校・子どもを通じたつながりづくりがこれからのアプローチとして必要。
- ・水辺の美化活動やごみ当番は、組合に入っていないに関わらず、協力すべき。

(3) 感想

自分たちの住む地域は自分たちで守る。一人では生きていけない。いざという時のためにも普段のコミュニケーションが必要ですね。川路居住憲章の再確認が改めて必要と感じました。

<川路居住憲章>

- 憲章1 つながり、相互扶助の精神を大切にする
- 憲章2 「住民全体の財産」をみんなで守ります
- 憲章3 地域の担い手づくりを進めます

2 川路への移住促進・人口増加対策

(現状) 令和5年度にまちづくり委員会で空き家調査を行い、所有者の意向を伺って、地元の建築業者・不動産事業者の方々に情報提供をしました。しかし、空き家があっても、居住可能な物件がまだまだ少ないため、川路に住みたいと考える方がいても、結局は他地区へ行かれる方も多いのが現状です。

(移住促進・人口増加対策) (市長、部長から)

- ・宅地の確保については、農地をつぶして作ることも必要ではあるが、宅地や空き家を活用することが重要。結いターン移住定住推進課においても、空き家等の情報量が多いほど移住先として選んでもらえる確率が高くなる。空き家・宅地の情報収集がポイント。
- ・小中学生にこの地区で育ててもらったという意識をより持ってもらうため、子どもたちに行事を通じて地区の良さをどう刷り込むかが重要。
- ・飯田市の空き家バンクを通じて紹介した物件は、空き家改修費等の補助が受けられる。

(人口減少対策) (市長から)

- ・ある年齢に達したら役は回さない。隣の地区と合併して役を回すのも1つのやり方。
- ・一部を他の人や業者に頼んだり、地区内の若者にお礼を渡してやってもらっている地区もある。
- ・祭りなども他地区などから応援してもらって継続しているところもある。

市長・部長から、広い視野でアドバイスをいただきました。市が何かをしてくれるのではなく、川路地区が何をしていくかについて後押ししてくれました。

健康福祉委員 歳末訪問 12/21

川路地区の88歳以上の方および77歳以上の独居の方110名に健康福祉委員の28名でケーキをお届けし、声掛けと安否確認をしました。

委員の皆様方にはご苦労をお掛けしましたが、「お届けした皆様からお礼の連絡をいただいていたうれしかったです」と木下委員長より報告がありました。



川路への移住促進・人口増加に向けて

人口減少が著しいことを踏まえ、人口増加・移住促進に取り組むため、島根県の(一社)持続可能な地域社会総合研究所の藤山浩所長と野村主任研究員、飯田市地域自治振興課に指導・協力していただき、飯田市主催によるワークショップが川路地区を対象に行われました。1回目(10月)は市役所、2回目(12月)は川路公民館で実施し、2回目は現三役、前三役、役員会役員、福澤克憲顧問、小中学校PTA役員、地域の方、前センター所長、センター職員の約30名弱で行いました。4つのグ

ループ(内1つは若者グループ)で実施し、川路地区の強みと弱み、各団体・施設のお互いの連携状況について、移住促進・人口増を実現するため話し合いました。



川路にある組織・団体や施設等を、「コミュニティ」「子育て・教育」「福祉」「農林」「防災」「その他」の分野に分けて拾い上げ、現状の活動の度合いや団体同士の関係性について、天気図マークを使って表しました。頑張ってる組織や施設等を「高気圧」、活動に対して応援が必要なものを「低気圧」、つながりや関係性が築けている団体同士は「温暖前線」で結び、連携を今よりも強くする必要があるもの同士を「寒冷前線」で結びました。大きなポイントになる組織等を「台風」として天気図で表し、どうしていくと移住定住につながるかについてグループごとに検討し、発表しました。



1月28日に最終3回目を実施。2回目のメンバーに加え、川路住民の方々老若男女39名で実施しました。

<各グループから出た移住定住実現のための柱>

- 将来、組合回覧はSNSを活用して情報提供する
- やりたいことを実現する場(ねやねや天龍峡デジタル住民部など外部人材のやりたいことと地区がやってほしいことのマッチング)の機会づくり
- 区の役員、まちづくりの運営方法の大胆な見直し
- 住宅や利用可能な空き家確保により、移住者を含め若い世帯が住みやすい住環境を整える
- 通勤・通学における交通(電車、道路)利便性をPR
- 里山保育など子育て環境が充実していることをPR
- 「天竜川総合学習館かわらんべ」を積極的に活用など

今回は、川路を幅広い年代でいろんな角度から分析しました。やはり、いろいろな年代の方の声を聴き、アイデアをもらうのはとても良いと感じました。課題は、今回得た分析とアイデアをまちづくり委員会としてどのように具体化して取り組んでいくか、これからがスタートです。